

1、 歳の瀬を迎えて

原田賢治

光陰矢の如し、と言われますが、「里山ビオトープ二俣瀬をつくる会」も発足して7回目の年の瀬を迎えました。初年度(平成12年)の頃は、“里山ビオトープ二俣瀬”のあるべき姿について、毎週会議を開き検討を重ね、ようやく意見がまとまり、ほっと一息した時期であったと思います。以来皆様の熱意と協力によって今日を迎えています。

また、里山自然観察隊も結成されて4年が経過しました。各指導者の熱心な指導のお陰で活発な活動が続いております。次の世代を担う子ども達は自然の営みや変化を学び貴重な体験を感じてくれる事と思います。

さて今年を振り返って見ると、地球温暖化が原因でしょうか異常気象と台風の影響で秋の収穫量は前年を大きく下回りました。(もち米153kg 昨年184kg)(蕎麦1kg弱 昨年15kg)

計画された観察隊の夜の厚東川探検行事も中止になりました。また夜の訪問者(猪)は、監視の目が届かないことを良い事に暴れ放題の状況です。

これらは温暖化が要因で自然界に異変が起きているのではないのでしょうか。

今年は維持管理が主な活動でしたが、次の二つの新しい事にも取り組みました。

山口宇部農協主催の案山子コンテストに参加しました。結果は特別賞を受賞しました。また山口県宇部健康福祉センター(厚東川、厚狭川、有帆川を考える会主催)要請により蓮田の一角に環境体験学習会の皆さんにより古代蓮(大賀ハス)が約30株植えられました。大きく成長し、美しい花が咲く事を願って、大事に育てましょう。

8年目を迎える来年は、いろいろと行事が計画されます。来年の干支は“亥”です。猪突猛進で多くの会員の参加とご指導、ご協力をお願いします。皆様良い年をお迎えください。

2. 活動報告(事務局 記)

- 11月25日(土) 午前の作業は、午後の古代蓮植栽池周辺の最終手入れとして、土を運搬して整備を行いました。午後には、厚東川、厚狭川、有帆川を考える会の研修会(古代蓮植栽)のために今井会長、原田、田村両副会長、林弘会員が案内役をされました。
- 11月25日(土) 午後の里山自然観察隊は「里山の暮らし」というテーマで、注連縄作り、竹細工(竹とんぼ、竹笛)、蕎麦粉挽を隊員18名、保護者12名、会員7名で行いました。
- 12月1日(金) 餅つき準備 車地の会員及び会員奥様 他田村夫婦、渡辺会員、13名にて米洗い、臼準備、会場準備をしていただきました。
- 12月2日(土) 18年度収穫祭PART-1が総勢114名で行なわれました。(「里山自然観察隊」の隊員22名と保護者会員12名、二俣瀬子ども会35名と保護者10名、小学校先生方3名、一般参加者3名車地地区応援者3名会員29名)
今年も一昔に使った「だいがら臼」も経験し、餡餅もほおぼりながら地区の子どもと観察隊隊員のコミュニケーションも出来ました。
参加者は全員たくさんの出来たてのお餅を土産に頂き楽しく一日を過ごす事が出来ました。
- 12月16日(土) 収穫祭Part-2と銘打っての蓮堀、椎茸の収穫をしました。参加者は22名で各自収穫の蓮根や椎茸を持ち帰って戴きました。
水車も新年を迎える準備で、水垢をきれいに掃除しました。
午後からは忘年会で男山の新酒、猪肉の焼肉、鍋でこの一年の活動の反省会楽しく過ごさせて頂きました。楽しい一年で来年も更に発展した一年であるよう飲み明かしました。

3、今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

今の所予定はありません。

◎ 行事

- 1月7日（日）（第一日曜日）の活動 年はじめの挨拶、（助成金相談）
- 1月20日（土）（第三土曜日）の活動 保全活動

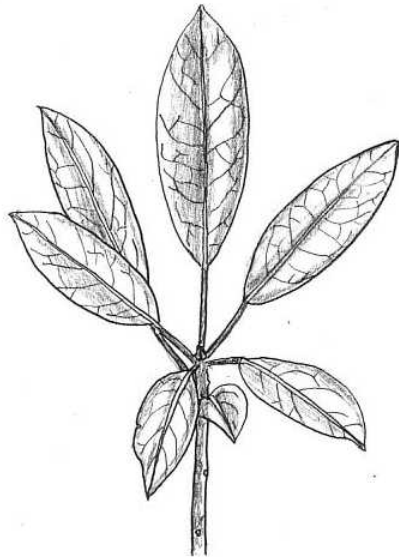
4、ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

ヒメユズリハとホソバタブ

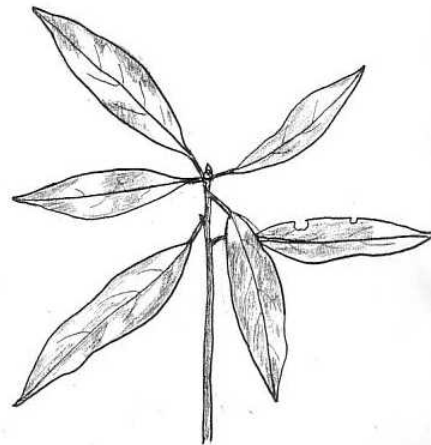
正月のしめ飾りには、ウラジロ、ユズリハ、ダイダイなどの縁起ものがあしらわれます。ユズリハは、「譲り葉」の名の通り、新しい葉が出揃ったのち、古い葉が一斉に落ちるので、家系が途切れることなく続いていくことの象徴と見なして、おめでたいお正月の飾りに使うのだと説明されています。新葉が展開してから旧葉が落ちるのは、常緑樹に一般的な性質ですが、なぜユズリハが使われるのかというと、新旧交代の意味の他に、葉軸の赤と葉裏の白の紅白がめでたいからといわれています。世代交代などの記念植樹としても、本種はよく使われるようです。昭和山にこのユズリハの木があることを知っていたので、先日枝を取ってきました。ところが持ち帰って図鑑で調べたところ、ユズリハではなく、ヒメユズリハでした。この2種、よく似ているのですが、ユズリハは葉が大きく、垂れ下がり、果序も垂れ下がるのに対し、ヒメユズリハは葉が上向きで、果序も垂れ下がらないところが大きく異なっています。また、ユズリハの葉裏は灰白色で網状脈が目立たないのに対し、ヒメユズリハの葉裏は緑っぽく、網状脈が良く目立ちます。念のため、近くの公園（東沖緑地）に植えられているユズリハとヒメユズリハをこの目で確かめに行ったので、それに間違いはありません。ユズリハは内陸、ヒメユズリハは海岸沿いに生えるといえます。確かに、小野田の竜王山にはヒメユズリハがありますが、ユズリハはありません。昭和山山頂部にはヒメユズリハしかありませんでした。二俣瀬は海岸沿いとも思えませんがユズリハはないのでしょうか。

実は先日の昭和山では、赤い葉軸の木を2種取って来て、ひとつはユズリハ、もうひとつがヒメユズリハだと思っていたのですが、ユズリハだと思っていたのがヒメユズリハ、ヒメユズリハだと思っていたのがこれがなんとホソバタブでした。ホソバタブは別名アオガシとも言って、照葉樹林の構成樹ですが、そうやたらにある木ではありません。以前、宮崎の綾溪谷を訪れた際、高木相にかなりたくさん見ることができましたが、原生的な照葉樹林には多いものの、2次的な普通の常緑広葉樹林ではかなり珍しい木です。昭和山でたまたま発見したこの木は、山道のど真ん中に生えているので主木は刈られ、萌芽した数本の枝が出ているだけの哀れな姿でした。

ホソバタブは、ユズリハとは縁もゆかりもないクスノキ科タブノキ属の常緑高木です。タブノキの仲間なので頂芽は一つで、葉のつき方も似ています。タブノキに比べるとその名の通り葉は細く、葉面がゆるく波打っています。また、今の時期、頂芽がすでに赤く色づいているのがタブノキとは異なっている点です。先日、持世寺の山でも何かわからない木があり、今ようやくそれがこのホソバタブだとわかりました。こういうめったに見る機会の少ない樹種というのは、以前1度くらい見たことがあっても記憶に定着せず、なかなか自分の物にならないものです。これからは、昭和山の道の真ん中にあるこの木を見るたび記憶を新たにすることができるので、もう忘れることはないでしょう。



ヒメユズリハ (ユズリハ科)



ホソバタブ (クスノキ科)

5. 里山自然観察隊

11月25日に里山の暮らしとしての行事と、12月2日の餅つきで、今年の観察隊の全ての行事は終了しました。

6. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

今月はありませんでした。

7. 会よりの連絡事項

来年の初集会(7日)での協議事項をお知らせします。

その1 「やまぐち県民活動きらめき財団」助成金の内容説明と、ビオトープ保全予定について

その2 「里山自然観察隊」の19年度の実施可否

その3 椎茸栽培、蕎麦栽培、木炭製造等活動の継続可否

皆様の忌憚りの無い意見をお聞かせ願うため会員の方は万障繰り合わせの上出席願います。

8. 編集後記

今年も会報は何とか毎月一回発行する事が出来ました。夏に「会員の声」で頼んでいた会員がいつも簡単に「書けない」との一方的な通達で行き詰ってしまった。

活動日この話を出して協議したところ毎月必ず発行すると言う事でなく、二月に一回位を最低限に発刊する気持ちでやれば如何か?との意見も出たが、その後内容はともかく毎月の継続発刊出来た。何でも立ち上げ時は皆の気が盛り上って何も問題は無いが、時間を経過すると次第細になっていく事は世の常である。何度も言ったが悪い意味で「竜頭蛇尾」である。

しかし、ビオトープの活動、里山自然観察隊活動、勿論!会報の発行もそうであってはならない「初心忘れるべからず」で毎月継続で行きましょう。(原田 満洲夫 記)